



# 東大和二ツ池だより

第7号  
(2026年3月)

発行 東大和市  
市民生活部環境対策課  
編集 認定NPO法人 生態工房  
●この印刷物には再生紙を使用しています



普段は見えない水の中

## 二ツ池の魚たち

二ツ池では魚などの水生生物のモニタリングを行い、調査結果を自然環境の保全や再生に役立てています。今号ではモニタリングで確認された魚類・甲殻類を紹介します。



オイカワ

モクスガニは河口付近で生まれると、子ガニが川を遡上して上流〜中流域に到達。内陸部で数年過ぎると大きくなり、河口域へ下って産卵し一生を終えます。モクスガニの存在は、二ツ池から流れ出す前川が東京湾とつながっていることを思い起こさせてくれます。



若いモクスガニ

成長して大ガニになるのが楽しみ!



**カニ**  
二ツ池には、成長すると手のひらほどの大きくなるモクスガニがいます。2024年以降に3回確認されており、少数が生息していると考えられます。



ギンブナ



モツゴ

**在来魚**  
在来魚は3種が生息しています。ギンブナとモツゴは個体数が多く、春には浅場で稚魚が見られます。カワセミが捕食している様子も観察できます。オイカワは少数が生息しています。砂や小石のあるところに産卵するので、堆積泥の除去作業を行って生息環境の改善を進めています。

### 外来種の持ち込み

二ツ池では2023年にかいぼり外来種防除を行いました。それ以降に見つかっている外来種がいます。メダカは数度にわたる持ち込みが行われ、觀賞用に改良した黄色や白色のタイプも確認されています。觀賞魚は水槽で楽しむものであり、自然の中には似つかわしくありません。觀賞用水草も投棄されていたので活動日に回収しました。

—このほかにカワリヌマエビ属が確認されています。水槽の藻の掃除用として、また釣り餌として販売されているもので、放流されると爆発的に増加します。引き続き外来種の防除と、持ち込み防止の普及啓発を行っていきます。



カワリヌマエビ属

※シナヌマエビ、ミナミヌマエビ、フツエビなどの商品名で販売されている

NO!  
生きもの放流



色とりどりのメダカ

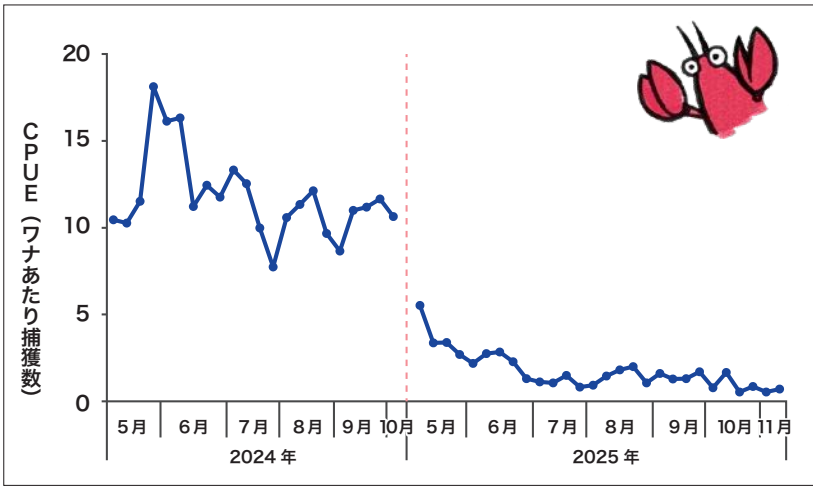
Pick Up NEWS

アメリカザリガニ

大幅減少!

生物多様性回復までもう少し

アメリカザリガニは水草を食害して水質悪化や水生昆虫の絶滅を引き起こすことから各地で防除が行われています。ニツ池では2024年5月にワナを使った防除を開始。作業1日の捕獲数は、2024年6月には200匹以上でしたが、2025年秋には約20匹に減りました。ザリガニがいない池を目指して引き続き防除に取り組んでいきます。



アメリカザリガニのワナ1個あたりの捕獲数 (CPUE) の推移

狭山丘陵保全班 レポート

新メンバー加入! 編

2023年のニツ池かいぼりをきっかけに公募したボランティア「東大和市狭山丘陵保全班」に新メンバーが加わりました。今回の募集は、普段の活動に参加してもらおう「体験参加」を経てボランティアに登録するというものです。2025年9月から半年間行った体験参加には計17名が参加。このうち5名が2期生としてボランティア登録しました。新メンバーが加わったことで普段の活動に活気が生まれています。また、大勢の人が体験参加にきたことで、保全活動を知ってもらう機会にもなりました。



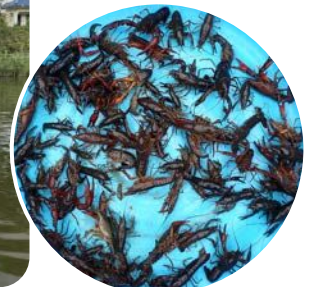
湿地整備作業を体験



アメリカザリガニ防除にも加わる



ワナを使った捕獲作業



捕獲したザリガニ

ちよこっと

TOPICS

外来種対策を行う都内自治体が来訪

東京都環境局が2025年に公表した「東京都外来種対策リスト・外来種対策行動の手引き」の現地説明会がニツ池公園で開催されました。都内の自治体・施設管理者など計21名が来園し、市職員らが園内での取組について解説。外来種への対処にとどまらず戸戸の自然再生を進めていることや、上の池などの整備によつて水辺の質・量を充実させていることを紹介しました。参加した自治体からは浅場の管理やザリガニ対策など、さまざまな質問がありました。



東京都外来種対策リスト・外来種対策行動の手引きは  
こちら